

最高気温は、東京と札幌の間、東京よりは5°C位低くなります。冬の生活に慣れたといっても、テレビに映る表日本側の冬の青空を見ると心中穏やかでなくなります。布団や洗濯物を戸外に干した、あの冬の陽がなつかしいのです。暗いイメージを強調してしまいましたが、他の季節は、海も空もきれいで、まだまだ自然が残されていて心がなごみます。夏は歩いて海水浴にゆくのです。海岸侵食が進んで砂丘が消え、消波ブロックの囲いの中で泳ぐ所もありますが、郊外では、松林、ニセアカシアやぐみの林を抜けて砂浜に出て、佐渡を眺めながら泳げるのです。

おいしい食べ物が沢山あります。甘えびに代表される海の幸が新鮮で鮭、たらこ、筋子の粕漬は新潟を代表する贈答品です。お米、お酒もおいしく、お酒に親しむ機会も多く、“まぼろしの名酒”なるものを探し求めて帰る旅行者が多いのです。6月～10月まで出まわる枝豆、柿の葉という菊の花の酢の物、巨峰や、初冬に収穫する巨大な梨、柿など果物が豊富に実り、冬にコタツに入って食べる冷たい梨や柿の味は格別です。どれも、関東からの来客に、ぜひ味わせたい食べ物です。

さて、地理を学んだ人間に、山好きが多いと、式先生

が書いておられましたが、潜在的山好きであつたらしい私は、越後の山々を目の前にして、すっかり山登りにとりつかれました。四季折々それぞれの美しさを見せてくれる山の姿に、日本の季節は4つでなく、12以上あるのではと思うのです。中高年の山の会に入り、4代なんて、まだまだ若いと思わせるような、人生経験豊かな山仲間と楽しい山歩きをしています。冬は日帰りで雪山を楽しめるのです。

山登りといえば、昨年、地理の同期生で巻機山へ登りました。上越新幹線のおかげで、東京からの時間が短縮され、日本海側と太平洋側から、上越国境の山宿でおちあい、昔の女子学生そのままに、笑いころげ、楽しい山登りができました。

今年は、卒業20周年です。月日の流れの早さに驚くと同時に、社会的責任は重くなり、仕事には油がのり、家庭的には、時間的ゆとりができる年令になりました。改めてここで、同期生のきずなを深めたいと思い、北は新潟から南は北九州市まで散らばる友が、中間地点にでも集合してみたらと楽しい夢を描いています。

(12回生)

職業と育児の両立について

村松晶子

幼い子をかかえて働くことの苦心については、多くの方々の語るところであるが、とうとう私にとっても他人事ではなくなった。娘が2才半の核家族での助手勤め、それでもひと昔前に比べれば働く女性も増え、保育所も整ってきているのだから、子供を保育所に預けて働くというのは、ごくふつうのことであるはずだと信じていた。

さて、4月、娘は近くの公立の保育園に入園できた。公立だけあって、設備もよく、子供16人に優秀な保母さんが3.5人つく。保育内容も感心するようなことが多く、娘などすぐ慣れて喜んで通うので一安心であった。ひところは、保育所に子供を預けるなんてかわいそうだという風潮もあったが、それは預ける先の良否の問題で、公立の保育園なら、預けること自体にはまず問題はないと思う。

そこでまずぶつかった問題は、「お迎え」である。保育時間は、最大限8時～6時、通勤に約1時間かかるので、勤務時間と重なってしまう。職場と保育園と自宅がすべて近接していればよいが、簡単に引越すこともでき

ないので、朝はともかく、夕方のお迎えはいろいろな人に頼むこととなった。ふつうかりだされるのはおばあさんだが、私の場合、母、義母とも仕事を持っているので、全面的に頼むわけにはいかない。ベビーシッターの制度も慣習もない日本では、他人を探すのは難しい。育児に責任を持つはずの夫は忙しいサラリーマンで全く期待できない。結局、父母・義父母を中心に、その日その日であいている人をお願いしてなんとか過ごした。

しかし、8時～6時といっても、めいっばい預けるのは子供にとって過酷なことだと思う。夕方6時すぎに帰宅してから夕食、入浴と毎日バタバタし、娘は母親とも遊びたいのでまとわりついてなかなか寝ようとしない。すると、朝、起きられない。無理に起こせば体調をくずす。娘の場合でいうと、保育園で過ごす時間は7時間位が限度で、それ以上になると、影響が出るようである。保育園の方でも、通例の保育は9時半～4時15分で、この前後の特例保育にはなるべくかからない方が望ましいのである。保育園児の親の職業は、自営業がほとんどで

あるが、この時間帯だけ預けて働くことができるのは自営業しかない。ふつうの勤めでは、親などと同居していなければいけないはずがなく、同居していれば「入所措置基準」からはずれてしまう。

短い間だったが、育児と職業の両立のできることと無理なことを知ることができた。以下は蛇足であるが、夫と妻の役割を図化して考えてみると、最も多いのは①の分業型である。この型に向いている人にはたいへん具合がよく、それぞれの仕事の能率もよい。妻が働く場合は、②のように妻が職業も家事育児も背負うか、③のように手助けを頼むかである。②は不可能に近い。これができる人をスーパーレディというのかもしれないが、どこかにしわよせがくると思う。③は、よくあるケースだが、一世代ずれているだけで、基本的には①の分業型と変わらない。増えてきているのが④の型で、①の変形。妻は内職かパート、夫も皿洗いくらい、というもの。理想的

だと思うのは⑤で、妻も夫も等しく家事・育児に参加し、職業も性別による優劣なく行なうもの。現在、この型が実現できる職種はわずかだが、どんな職業でも実現できる基盤ができて、①～⑤の自分達に合った型を選択できるような社会になっていくことを願う。

(21回生)

